

子どものよき支援者になるために

～児童生徒理解とその子に応じた指導・支援～

教育相談課 研修生 小田 浩紀

子どもの声

「教育を考える子ども座談会」(鳥取県教育委員会、平成 13 年 7 月)から

- ・自分は正しいと思っている先生がいる。すぐ、悪い方に決めてしまう先生がいる。
- ・先生には、私たちのことをちゃんと見てほしい。正しく見てほしい。
- ・できなかったことばかり言っていないで、がんばってやっていることやできたことをほめてほしい。できていないことは、アドバイスをしてほしい。
- ・ルールや校則をあれもこれも決めすぎ、ルールは自分たちで人に迷惑をかけないように、必要なものを決めたい。
- ・子どもでもできると思っていることをできないと決めつけたりする。もっと信用してほしい。

子どもの心が視える教師に

「不登校」
からの
児童生徒理解

- 視点:「心的エネルギー(自信)」の不足と「対人関係」を持つことの困難さがある
☆「自信の回復」と「対人関係づくり」の援助をベースにする
- 視点:不登校を「自立へ向けての第一歩」と捉え、子どもの持っている「自立への力」を信じて援助していく
☆支援・・・「居場所づくり」「絆づくり」「気持ちを言葉で伝える力」「自分で決める」

- 「誰」にとっての問題か
- 「問題」行動を子どもに即して捉える
・その「問題」行動が子どもの視点に立ったとき、どんな意味を持っているのか
- 発達的な意味がかくされている「要求」として捉える
・発達の要求 ⇔ 「そうならない自分」⇒ 「良い自分」に変わりたい」という願い

「問題行動」
からの
児童生徒理解

「発達の視点」
からの
児童生徒理解

- 発達の原理『自発性、連続性、統合性、臨界期』
- 発達の基礎『「安心」して生きる、自分の力を信じる「自信」、自分で選ぶ「自由」』
- 発達課題
『信頼感・自律感・活動性・自発性と自己同一性』
☆子どもが求めているものが、何であるのか
☆どこに、困難さがあるのか

「気持ちをわかってくれる先生」「信頼してくれる先生」



「カウンセリング・マインド」を持った先生

子どもが求める先生

「カウンセリング・マインド」に基づく子どもへの関わり

- ①成長の可能性への信頼
- ②人間として対等の関係
- ③ありのままに受け止める
- ④子どもに学ぼうとする構え
- ⑤気持ちへの関わり
- ⑥新鮮な目で柔軟に見ていく
- ⑦ともに考え、歩もうとする
- ⑧自尊心を大切に、待てる
- ⑨理解と指導との統合

☆『子どもの気持ちを受け入れること、そして、教え与えようとせず、子ども共に考える姿勢を持つこと』

「理解」と「指導」

受 容	理 解	指 導
「そうならない自分」 (困っている)(苦しんでいる)	「こうありがたい」「こうなりたい」 どんな意味があるのか	投げかけ・期待
「良い・悪い」ではなく、ひとまず 受け入れる 認める 許す	子どもに寄り添い、共に考える (可能性の追求)	可能性への信頼 子どもの伸びを共に喜ぶ
「行為は制限するが、気持ちは 受容する」	「多様な心理、行動は一つ」 「子どもの中に答えがある」	結果ではなく、プロセスを見ていく 1つでなく、複数の指導法を持つ
できなかったことや悪いこと ばかり言わないで	ちゃんと見てほしい 正しく見てほしい	もっと私たちのことを 信用して

まとめ

発達の視点で子どもを理解（「こうありがたい自分」⇔「そうならない自分」）し、子どもの「伸びたい」という気持ちを受け止め、子どもが「伸びていく可能性」への信頼を土台として、子どもの歩調に合わせながら、子どもの持っているパワーが発揮できる具体的な活動や場をつくり、期待を込めて子どもに投げかけ・働きかけていく指導・支援。